

1年 総合実習「つくばい施工」

2学期も始まり、残暑が続きますが実習もスタートしました。今回の実習内容は「つくばい」の施工です。前は「飛石」の施工を行いました。ここで学んだ基礎を応用しながらつくばいの施工を行います。

飛石と同じくつくばいも「茶庭（露地）」の庭園施設で、千利休が完成させた茶道の文化とともに庭園に取り入れられるようになったと言われています。



まずは、見本のつくばいを見ながら、構成や施工についての説明を受けます。つくばいは

- ①手水鉢
- ②前石
- ③湯桶石
- ④手燭石
- ⑤海
- ⑥水門
- ⑦見切り石 で構成されています。



大きな石もありますが、仲間と協力して作成しましょう。



最初は手水鉢をきめます。ポイントは水穴からあふれた水が海の方に流れるよう少し傾けること。角度を見ながらしっかりと突き固めます。

その後、前石、湯桶石、手燭石、海、見切り石の手順で施工します。全体のバランス、各石の高さを見ながら施工しました。



実際に作ったもので、手を清めるふりをしてみました。使うことでわかる全体のバランスや美しさも大切なポイント。重い石、暑さ、細かな技術、大変なことも多くありますが、何かを身に付けるにはそれを乗り越えた先にあると思います。

今後つらいことを

仲間と一緒に乗り越えていきましょう！

